

# 定量的眼位検査 他覚的斜視角検査(プリズム反射:Krimsky:法)

## 準備物 プリズム・光源

あらかじめ Hirschberg 法にておおよそのプリズム度数を  
目測し、その近い値から開始  
すること。(プリズムは度の約2倍)

通常、光源を被検者の眼前 33cm に置き、注視させる

例) 左眼内斜視の場合

Hirschberg 法にて +45° だった!



## 目的

・幼少の為、プリズム遮閉試験が不  
可能な場合の顕性偏位の定量  
・偏心固視や器質的疾患(患眼の視  
力がかなり悪い)がある場合の顕  
性偏位の定量

・偏心固視は片眼をさす。  
この検査は両眼開放だから  
検査可能だね。



内斜視 - Base out  
上斜視 - Base down  
外斜視 - Base in  
下斜視 - Base up

斜視眼によってプリズムの基底の置き方とおおよその度数を決める



例の場合、Base out にし、  
約 60 から開始するとしよう。

YES

麻痺性斜視か?  
運動制限があるか?

NO



これらの症例の場合、方法を選ばない。



ブロックプリズムによる方法  
眼科プラクティス 86 P138

斜視眼にプリズムを装用する方法  
Krimsky(本・原)法

視能学 P318 では本来は固視眼にプリズムを装用する方法を基本と記載し  
ている。von Noorden ははっきり言及していないが Pratt・Johnson は、斜視  
眼にプリズムを装用する方法を本・原法と言っている。

固視眼にプリズムを装用する方法  
Krimsky 変法(modified krimsky test)

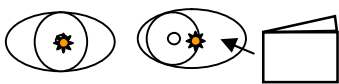


パープリズムによる方法  
視能矯正マニュアル P211

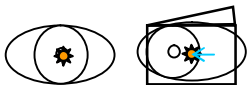
上下斜視の場合、置き方に注意!

斜視眼の前にプリズムを置き、斜視眼の角膜光反射  
が瞳孔中央にくるまでプリズム度数を上げてゆく

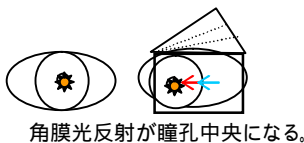
固視眼の前にプリズムを置き、斜視眼の角膜光反射  
が瞳孔中央にくるまでプリズム度数を上げてゆく



プリズムを斜視眼に Base out に置く。  
斜視眼の光源は、瞳孔に近づく。



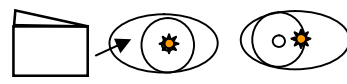
プリズム度数を増加させてゆくと徐々に  
光源が斜視眼の瞳孔に近づく。



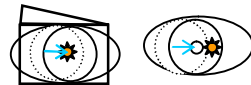
角膜光反射が瞳孔中央になる。



プリズムを通過しての  
光線は基底方向に曲  
がるが、プリズムを通  
して見た角膜反射の位  
置は違うので注意!



プリズムを固視眼に Base out に置く。  
固視眼の光線は基底方向に曲がり網膜中心窩から耳  
側に投影されるので中心窩で見るため内転する。  
Hering で斜視眼が外転する。



プリズム度数を増加させてゆくと徐々に固視眼  
が内転すると同時に斜視眼が外転して瞳孔が  
光源に近づく。



角膜光反射が瞳孔中央になる。

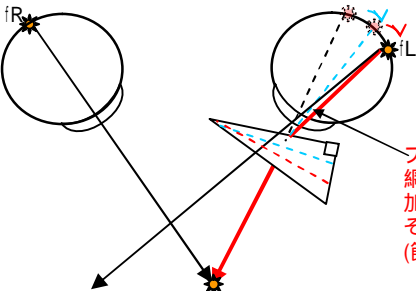
徐々に角膜光反射と瞳孔が近づいている!

例)

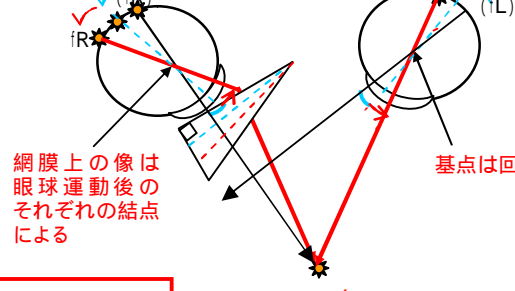
角膜光反射が 70 で両眼瞳孔中央になった!



最後に  
固視眼を遮閉して  
動きがないか確認  
すると、より正確。



プリズム通過後の  
網膜上の像は増加  
したプリズムの  
それぞれの結点  
(節点)による



網膜上の像は  
眼球運動後の  
それぞれの結点  
による

基底は回旋点

そのプリズム量が他覚的斜視角(単位は )

## 短所

- ・斜位は測定不可能(顕性分のみ)
- ・眼前のプリズムによる近接性輻湊  
が介入しやすい
- ・交代視が素早い者は測定困難
- ・角が読み込まれる

## 長所

- ・乳幼児でも検査可能
- ・Hirschberg 法より正確
- ・斜視眼の視力が悪くても可能

近見なので略語  
に 'ダッシュ' を  
付ける所もある。

## 結果・記載例)

krimsky 法(Lにプリズム)

L-ET +70

又は 70 Base out

krimsky (変) 法(Rにプリズム)

L-ET +70

又は 70 Base out